

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 7 月 19 日 (2007.7.19)

【公開番号】特開 2006-1965 (P2006-1965A)

【公開日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【年通号数】公開・登録公報 2006-001

【出願番号】特願 2004-176650 (P2004-176650)

【国際特許分類】

C 0 8 J 5/00 (2006.01)

C 0 8 K 7/06 (2006.01)

C 0 8 L 77/10 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 5/00 C E R

C 0 8 J 5/00 C E Z

C 0 8 K 7/06

C 0 8 L 77/10

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 4 日 (2007.6.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

芳香族ポリアミド及び単繊維の表面に長手方向に延びる皺が実質的に無い炭素繊維を含有する熱可塑性樹脂組成物からなる、曲げ弾性率が 3 5 0 0 0 M P a 以上、比重が 1 . 4 以下である熱可塑性樹脂成形品。

【請求項 2】

比弾性率が 2 5 0 0 0 M P a 以上である請求項 1 記載の熱可塑性樹脂成形品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

本発明は芳香族ポリアミド及び単繊維の表面に単繊維の長手方向に延びる皺が実質的に無い炭素繊維を含有する熱可塑性樹脂組成物からなる、曲げ弾性率が 3 5 0 0 0 M P a 以上、比重が 1 . 4 以下である熱可塑性樹脂成形品に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

このような物性を有する熱可塑性樹脂成形品は、芳香族ポリアミドを含有する熱可塑性樹脂 (A) と単繊維の表面に単繊維の長手方向に延びる皺が実質的に無い炭素繊維 (B) を含有する熱可塑性樹脂組成物を成形することによって製造することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

炭素繊維（B）は、単繊維の表面に単繊維の長手方向に延びる皺が実質的に無いことが必要であり、さらに単繊維の繊維断面の長径と短径との比（長径／短径）が1.00～1.02、ストランド弾性率が230～500GPaであることが好ましい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

ここで、単繊維表面の皺は、電子顕微鏡で単繊維表面を観察し、繊維方向に溝があるか無いかを判定したものであり、単繊維の繊維断面の長径と短径との比は、電子顕微鏡度で単繊維の断面を観察して評価したものである。